

ま と め

以上の調査結果をまとめると次のとおりである。

- (1) 訓練生の9割弱が男性で、年齢は35歳以上45歳未満が半数を占めている。学歴は、中学校卒、高校卒、大学・大学院卒がそれぞれ3割弱を占めている。そして訓練生の8割強のものが家族等と同居している。
- (2) 入校の動機、科の選定がどのようにして行われているかをみると、ともに公共職業安定所の紹介によるものが7割弱、自分の意志によるものが4割強、家族、知人、教師の勧めによるものが2割強とほぼ同率となっている。これは、入校の相談が訓練科の選定と一緒に行われているためと考えられる。
- (3) 訓練の種類は、全員が普通職業訓練で、7割強のものが短期課程、3割弱のものが普通課程である。
訓練科を事務系と非事務系に大別してみると、事務系の訓練科が6割強、非事務系の訓練科が4割弱となっている。訓練の方法は、実技・学科一体型の訓練が7割弱で、実技・学科分離型の訓練が3割強である。
- (4) 訓練効果については、6割弱の訓練生が訓練効果があったとしているのに対して、効果がなかった訓練生が4割強いる。訓練科と訓練効果の関係では、事務系の8割弱、非事務系の3割の訓練生が訓練効果があったとしている。
また、訓練科の選定と訓練効果の関係では、自分の意志が科の選定に生かされている場合は、訓練効果が大きい、公共職業安定所の紹介のみの場合は、訓練効果が小さいようである。
- (5) 訓練効果がなかった理由としては、
 - ・ 学科は積極的であるが、実技が消極的なため訓練効果が小さい。

- ・ 嫌いな学科になると、体調が悪いと遅刻や早退をする。
- ・ 指導員の指導（基本型）に従わず、自己流でやることが多い。
- ・ 気持ちや体の柔軟性が欠けているため、繊細で根をつめて行う作業は、対応できない等が見受けられた。
などが上げられている。

(6) 訓練指導上の配慮については、4割強の訓練生に対して特別な配慮をしている。また、訓練科との関連では、事務系の訓練科では7割強の訓練生に対して特に配慮はしていないが、非事務系の訓練科では、7割強の訓練生に対して特別な配慮をしている。

(7) 実技指導上の特別な配慮の内容としては、

- ・ 常に指導員が近くにいるようにした。
- ・ わからないことは、必ずその時に質問させるようにさせた。
- ・ 実習作品のできばえの良いときは、他の訓練生より多めに誉めるようにした。
- ・ 個別授業、補講等の実施を心がけた。
- ・ 長期欠席があった後は、病状など健康状態を聞き、その状態にあった実技指導を行った。
などが上げられている。

(8) 訓練修了後、6割強の訓練生が就職しているが、2割強の訓練生が就職しなかった。

次ぎに、訓練科と就職先の職種との関係では、関連職種に9割弱の訓練生が就職している。年齢別では、35歳以上45歳未満の訓練生の就職率が最も多く8割強である。また、訓練科別では、事務系では9割弱が就職し、非事務系では4割強が就職している。